



身近なお医者さんに

舞鶴医療センター 神経内科医 水原 亮さん

この春、舞鶴医療センターに舞鶴出身の医師である水原さんが着任されました。そこにはUターンを決意し、地元出身の医師として身近に感じてもらえるよう、ひたむきに努力する姿がありました。今回は水原亮さんに神経内科医の仕事に対する心構えなどのお話しを伺いました。

医師を目指したきっかけとUターン

高校を卒業するまで市内で過ごした水原さんは、小さいころに病気やけががよく病院にかかっていた。そのとき診てくれたお医者さんがいつも何気ない雑談で、不安や緊張を和らげてくれた。そのことが、お医者さんを身近に感じ、医師という職業に興味をもったきっかけだったという。

医師になることはハードルが高く難しく思うが見えるが、志があればきつとなれると思ったそう。そこから勉強して島根大学医学部へ進学し医師になり大病院で勤務したこともあり、春から小学校に入学する子どものことを考え、4月にふるさと舞鶴に帰ってきた。小さいころから変わっていない地元風景などを見て心が安まったそう。

仕事と私事

舞鶴医療センターでは脳卒中や認知症、頭痛などの患者さんを診る神経内科医として勤務している。神経内科というのは突発

的な症状で急な対応をすることが多い。最近では「これくらいで病院にかかるのは」と我慢をして症状が悪化してから来院する人も多い。少しでも心配なときは相談してもらいたい。そのためにはわずかなことでも普段から相談できるかかりつけ医を持つてほしいと話す。

日々の仕事に加え、夜間・休日救急診療も受け持つ水原さんは「看護師などのスタッフによる支援や病院の体制に助けられている」という。また「転院が必要なときでも最初に診た医師が責任を持って診察し、次の病院へつなげるという基本さえできていれば、患者さんのスムーズな転院につながる。そのためにも専門外の医学の知識も常に蓄えておかなければならない」と話す。

そんな水原さんも家に帰れば4人の子どものお父さんだ。まだ子どもが小さいのでなかなか遠出ができないそうだが、子どもと一緒に映画館に行ったり、近場の公園や「あそびあむ」に行つて体を動かして遊ぶのが休日の楽しみだという。ちょうどダイエットにもなつていいと笑顔を見せていた。

頼られる医者

いつも患者さんたちとこまめにコミュニケーションをとることを心掛けている水原さんは、先日、高齢の認知症患者さんを診た際、ご家族に「これだけの対応をしてもらえるとは思いませんでした。ありがとうございます」という感謝の声を掛けていただいたことがうれしかったそう。「難病で治療が難しいケースもあるが、そのときに病院でできることを最大限行う。コミュニケーションもしっかりとる。この病院、この医師にかかつてよかったと思ってもらえるような対応を心掛けていきたい」と話してくれた。

患者さんからも病院のスタッフからも頼りにされて、何でも相談してもらえる医師になるのが目標だ。もちろん負担が増えて大変な面もあるが、「あの先生になら信用して頼める」と言ってもらえるような存在でいたいと水原さんは今日も白衣に袖を通して、親身な姿勢で患者さんと向きあう。

まいつる 花図鑑

vol. 132

各地の山野の草や木に巻きつく1年草の寄生植物。地面から発芽すると近くに生えるほかの植物に巻きつき、寄生根を宿主に差し込み、養分を取り込み成長を始めると根は枯れる。茎は針金状で無毛、葉は小さく鱗片状で長さ2ミリのほど。葉緑素は無い。夏から秋にかけて白色の小さな花をたくさん穂状につける。名前の由来は、宿主に寄生すると根がなくなり、この状態であることから。道端などで見られる。北アメリカ原産のアメリカナシカズラは、葉が細く黄色をしている。

【協力】瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)



ネナシカズラ
(ネナシカズラ科)

見ごろ 8～10月頃

